



前の出来事は、なんと火山活動により近くの山の斜面が崩れて海岸になだれ落ち、それによって対岸の地域が津波に襲われるというすさまじい災害です。

1792年の「島原大変肥後迷惑」の出来事について、詳細な資料がまとめられたものとして、津久井雅志 編集・発行「雲仙岳寛政四年噴火・島原大変資料集」(2020)があります。

<https://opac.11.chiba-u.jp/da/curator/109225/>

当時の古文書や絵図なども収録された力作です。当時の出来事を簡単に記すと、まず雲仙普賢岳で地震を伴う火山活動が起き、溶岩が山腹を流れました。そしてその後に大地震が起き、その影響で地下水が溜まっていた眉山の東側斜面が崩れ落ちて、島原の城下町を飲み込んだあと、海岸まで達して大波を立てたため、対岸の肥後(熊本)の海岸沿いに大津波が押し寄せたというものです。この時の土砂の名残りを、現在は「九十九島」として島原の沖合にみることができます。ちなみにそのあと津波が寄せ返して、今度は島原周辺の海岸を襲いました。この災害で約15,000人の人が亡くなりました。

<https://maps.gsi.go.jp/#11/32.780059/130.535431/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f2&d=m>

平成の大噴火では、眉山の崩壊はなく、むしろ眉山があったために、島原の市街地には火砕流が下らず、その南側の水無川沿いの地域に大きな被害が出ました。ただ、いつ同じような災害が起きないとも限りません。何事も歴史に学び備えを怠らないことが大切であるといえます。